

特定非営利活動法人 子どもの心理療法支援会

2012-13

# 精神分析的な心理療法 研修プログラム 募集要項

## はじめに

### ・新タームとしての開講

NPO 法人「子どもの心理療法支援会」では、精神分析的な心理療法に関する高い専門性を有した心理療法家を育成し、さらに精神分析的な風土を多くの専門家の間に作り出していくために、2006年4月から独自の研修プログラムを運営しています。この研修プログラムは、英国タビストック・クリニックで実施されている子どもの心理療法の訓練プログラムを参考に、子どもの精神分析的な心理療法の基礎について、集中的かつシステムティックに学べるように配慮されています。また、今年度は文献講読が新たに3ターム目を始める年であり、境目の年でありますので、新たに受講しようとされている方はぜひ一度ご検討ください。

### ・資格認定制度のご紹介

昨年度から新たに「子どもの精神分析的な心理療法士」資格の認定制度を立ち上げました。これは子どもの精神分析的な心理療法を行う上で必要な専門性を培っていくための研修の目安・目標を設定し、子どもの精神分析的な心理療法の専門性の社会的認知度を少しでも高めることが目的です。また2009-10年には、「日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修グループの認定を受け、一部のセミナーでは精神分析的な心理療法士・精神療法医資格に必要な単位を得ることができるようになりました。

### ・当研修プログラムの理念

ただし、本 NPO における研修の理念は、「アトリエシステム」という言葉で表されるものです。それは、研修を受ける皆様それぞれが、自立性・自主性・専門性を持ち、自身の目指す方向を見つけ、それぞれに合った仕方で学んでいくことを目指し、本 NPO はそのための「場＝アトリエ」を提供するというものです。私たちは、受講者の皆様が今回企画された研修プログラムを通して自主的に考え、感じ、議論し、それぞれの好奇心を刺激し合うことが重要だと考えています。そして、その場で生じた受講者の皆様のさらなる好奇心とニーズによって、研修プログラム自体がより充実したものへと成長していくことを私たちは望んでいますし、それに応えられるよう今後とも努めていきたいと考えています。

このアトリエがさまざまな色の好奇心によって満たされ、変化し、成長していくことは、皆様と本 NPO が共に成長していくことの証でもあるように思われます。

皆様の積極的な参加を心よりお待ちしております。

特定非営利活動法人 子どもの心理療法支援会  
理事長 平井正三

# 1. 研修プログラム

本研修プログラムは、「子どもの精神分析的心理療法 BASIC」、「基幹セミナー」、「応用セミナー」の3部門によって構成されています。今年度の研修プログラムは以下の通りです。詳しい内容については、「4. コース紹介」をご覧ください。

☆下記日時は、基本的な日時であり、講師の先生の都合で変動することがあります。ご了承ください☆

コース名		講師	定員	日時	
基幹 セミナー	子どもの精神分析的心理療法 BASIC	鶴飼奈津子	10名	第2・4水曜日 19:00～21:00	
	乳児観察セミナー	平井正三	5名	毎週月曜日 19:30～21:00	
	文献講読Ⅰ※ <sup>1</sup> 「精神分析のエッセンスを学ぶ」	飛谷渉	12名	第4土曜日 18:30～21:00	
	文献講読Ⅱ※ <sup>1</sup> 「実践に役立つ精神分析」	飛谷渉	12名	第1火曜日 19:00～21:30	
	文献講読Ⅲ※ <sup>2</sup> 「こころの発達心理学」	北川恵／ 別府哲	15名	第2土曜日※ <sup>3</sup> 16:30～18:30	
応用 セミナー	G S V	Small Group Supervision I	飛谷渉	5名	第2・4火曜日 19:30～21:00
		Small Group Supervision II※ <sup>1</sup>	平井正三	5名	第2・4木曜日 18:00～19:30
	ワーク ショップ 勉強会・	発達障害児の心理療法ワークショップ	平井正三	15名	第2土曜日 19:00～21:30
		精神分析臨床研究会	平井正三	15名	第4木曜日 14:30～17:00
		思春期青年期の 精神分析的心理療法セミナー	飛谷渉	10名	第2土曜日 18:30～20:30
		京都精神分析研究会	平井正三	—	第3土曜日 19:00～22:00

※1：日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修の単位が取得できるセミナーです。

※2：2名の先生が5回ずつ担当します。

※3：第二土曜日以外の日程となることが多いため、5ページの開講予定日をご確認ください。

**会場：御池心理療法センター（基幹セミナー、応用セミナー共通）**

〒604-8187 京都市中京区東洞院通御池下る笹屋町4-4-4 初音館302

地下鉄烏丸御池駅下車、徒歩2分

- ・鶴飼先生のセミナーにつきましては、大阪（梅田）の会場で行います。
- ・飛谷先生のセミナーにつきましては、大阪（なんば）の会場で行います。
- ・京都精神分析研究会は、佛教大学四条センター会議室（阪急烏丸駅すぐ）にて行います。

☆御池心理療法センター以外の会場の詳細は受付後、参加者にのみお伝えいたします☆

## 2. 講師紹介（敬称略，50音順）

**鵜飼 奈津子**：1997～2004年タビストック・クリニック児童・家族部門留学。Child & Adolescent Psychotherapist 取得。ロンドン医療センターおよびRefugee Therapy Centre, Child & Adolescent Psychotherapist を経て、現在、大阪経済大学人間科学部准教授。

**北川 恵**：1999年京都大学教育学研究科博士課程研究指導認定退学。2002年教育学博士（京都大学）。Adult Attachment Interview コーダー資格取得。現在、甲南大学文学部人間科学科准教授。

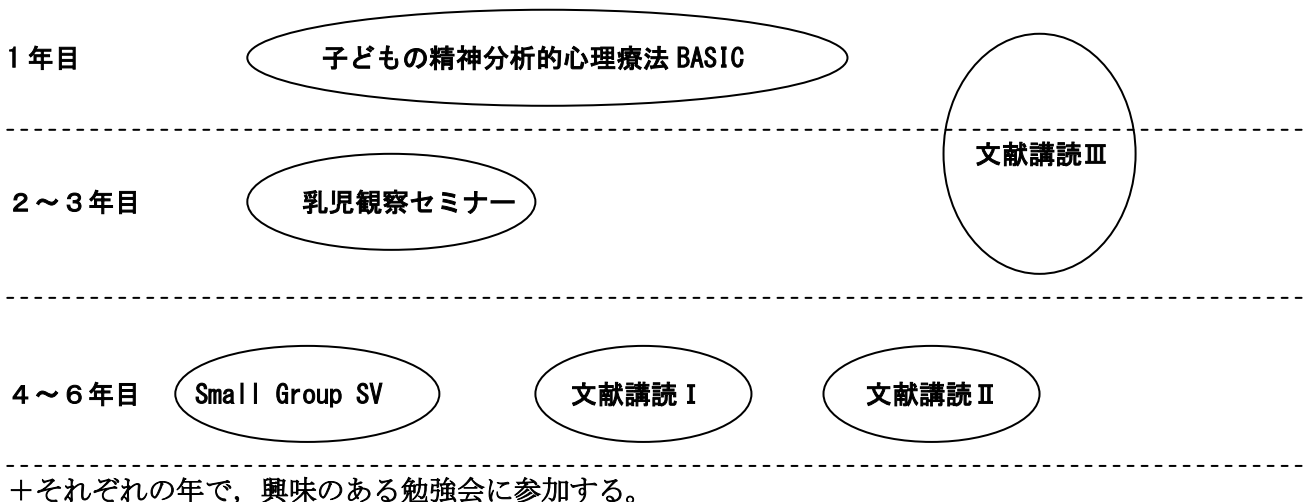
**飛谷 渉**：1991年大阪市立大学医学部卒，2004～2008年タビストック・クリニック思春期青年期部門留学。現在、大阪教育大学保健センター准教授。精神科医，精神分析的な精神療法医。

**平井 正三**：京都大学教育学研究科博士課程を経て，タビストック・クリニック児童・家族部門留学。Child & Adolescent Psychotherapist 訓練コースを修了し，資格取得。現在，御池心理療法センター代表およびNPO 法人子どもの心理療法支援会理事長。

**別府 哲**：京都大学大学院教育学研究科を経て，1999年教育学博士（京都大学）。現在，岐阜大学教育学部教授。主要著書に『自閉症幼児の他者理解』（ナカニシヤ出版），『赤ちゃんの認識世界』（共著 ミネルヴァ書房）などがある。

## 3. モデルコース

精神分析的な心理療法の基礎について，体系的に学んでいただくために本NPOでは以下のモデルコースを用意しております。受講をご検討される際の参考にしてください。



これはあくまでモデルコースです。この通りの順番で受講しなければいけないというものではありません。ご質問がありましたら，事務局まで（E-mail：[info@sacp.jp](mailto:info@sacp.jp)）ご連絡ください。

## 4. コース紹介

### 4-1: 基幹セミナー

#### 4-1-1: 子どもの精神分析的心理療法 BASIC

子どもの精神分析的な心理療法に興味がある、実践してみたいと感じている方を対象にします。心理療法の事例を持っていない場合でも、家庭教師やボランティアなど子どもと関わる仕事をしている場合には、そこでの事例を検討することを通して、精神分析的な心理療法の見方を学んでいきます。BASICは再来年度(2013-2014年)の不開講が決定しています。受講を検討されている方は、ぜひ今年度に受講してください。

子どもの精神分析的な心理療法 BASIC	鵜飼奈津子先生／梅田会場	第2・4水曜日／19:00～21:00
—講師からの内容紹介— 子どもの精神分析的な心理療法を実践していこうとする際に問題となることは、その背景となる基本的理論をしっかりと学ぶことはもちろんですが、それをいかに具体的にかつ実践的な場面に応用していくかということでしょう。このセミナーは、そうした基本的理論を学びながら、豊富な実践例を紹介していくなかで、参加者の皆様の日々の臨床について考えていただく機会にしたいと思っています。随時、皆様から提供していただく事例検討の機会も設けたいと考えています。		

#### 4-1-2: 精神分析的な心理療法実践の基本を学ぶ

精神分析的な心理療法を実践するにあたって、基本的な治療者の態度について学ぶことができます。

乳児観察セミナー	平井正三先生	毎週月曜日／19:30～21:00
—講師からの内容紹介— 本セミナーでは、タビストック方式乳児観察を実際に経験することで、乳児の心の世界や母子関係の実際に触れる一方、精神分析的な観察のスタンスを身につけていくことを目指していきます。参加者は、2年間毎週1時間観察のために、そしてさらにそれ以上の時間を記録のために費やすことのできるコミットメントを必要とされます。乳児観察の経験は子どもの精神分析的な心理療法の研修の基礎であると、本NPOは考えています。 本セミナーは、年間を通して随時参加できます。本セミナーに参加を希望される方に対しては、事前に始め方などをご相談いただく機会を設けますので、NPOの事務局もしくは講師の方にご連絡ください。		

#### 4-1-3: 文献講読

精神分析および発達に関する基本的な文献を読み、学んでいきます。今年度は1ターム3年の初年度になります（ターム途中からの参加も可能です）。尚、「文献講読Ⅰ」「文献講読Ⅱ」は、「日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修グループの認定審査を受け、「系統講義」として認定されています。

文献講読Ⅰ「精神分析のエッセンスを学ぶ： フロイト、クライン、ピオン」	飛谷渉先生／ なんば会場	第4土曜日／18:30～21:00
—講師からの内容紹介— 精神分析の歴史を踏まえた理論的、方法論的発展について、特にフロイトからクライン、クラインからピオンという系譜を軸に3年間かけて系統的に学んでいきます。今年度は2クール目の一年目にあたり、フロイトから再度始		

まることとなります。本年度はフロイトの主要論文を読み、それらが現在の精神分析臨床にいかなる価値を持つのかについて考えて行きます。サブリーディングとして、Quinodoz の 'Reading Freud' を使用し、精神分析史におけるフロイトの方法論的、理論的、そして人間的な変遷を分かりやすく追跡できるよう構成されます。二年目は、クライン後期の主要論文を中心に、クライン派臨床の基礎的理論を学びます。三年目は、ビオンの著作にふれ、彼が精神分析臨床にもたらした革新的な概念について探求し、今一度精神分析という営みとは何かということについて考えて行きます。

使用文献, 1) 「フロイト全集; 岩波書店」, 2) 'Standard Edition of complete psychological works of Sigmund Freud' 3) 'Reading Freud' Quinodoz

文献講読Ⅱ「実践に役立つ精神分析： クライン派における投影同一化概念の発展とその臨床的意義」	飛谷渉先生／ なんば会場	第1火曜日／ 19:00~21:30
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>このコースは、クライン派の理論的アイデンティティの中核にある「投影同一化」の概念をクライン派の重要な文献を購読することで様々な角度から検討し、その実践的意義を学ぶよう企画された文献購読セミナーです。クライン自身の文献はもとより、シーガル、ビオン、ローゼンフェルド、メルツァーといった初期のクライニアンから、ジョゼフ、オショウネシー、フェルドマン、ブリトン、スタイナーといったメインストリーム・クライニアン論文を選び、受講者が「投影同一化」についてのまとまった理論的臨床的理解を身につけて行くことをめざしています。その中では、無意識的空想、内的対象、ポジション論、羨望の作用、そういったクライン派の諸概念についても随時学んで行きます。文献には最新のものが多く含まれるため、英文が中心となります。</p> <p>本年度の使用文献: 'Projective Identification: The fate of a concept' Spillius, E. &amp; O' Shaughnessy. Routledge.</p>		

文献講読Ⅲ 「こころの発達心理学」	北川恵先生／ 別府哲先生	第2土曜日／ 16:30~18:30
<p>—北川先生からの内容紹介— <b>開講予定日：4月14日、5月12日、6月9日、7月21日、8月11日</b></p> <p>乳児のこころの発達は養育者との関係性が基盤となります。子どもの健全な発達に必要な養育者の関わりについて、関係性の問題が発達やメンタルヘルスに及ぼす悪影響について、子どもと養育者の関係性支援の理論と方法についてなどの論文を読みます。アタッチメント理論とそれに基づく親子への介入についての文献 (Oppenheim, D. &amp; Goldsmith, D.F. (2007) Attachment theory in clinical work with children: Bridging the gap between research and practice. 数井・北川・工藤・青木訳(2011)「アタッチメントと養育者—子どもの臨床」(ミネルヴァ書房) など) や、タビストックの発達文献リストにある英語文献 (Tronick, Trevarthen, Fonagy, Schore など) から、参加者の関心に応じて講読し、臨床実践とつながるような議論をしたいと考えています。</p> <p>—別府先生からの内容紹介— <b>開講予定日：9月8日、10月6日、11月3日、2月16日、3月9日</b></p> <p>自閉症の障害とその支援を考える上で、定型発達乳幼児の発達を学ぶことは重要となります。特にその中でも、定型発達乳幼児が他者や自己、そして自他関係をどのように理解していくのか、そこにおける養育者を中心とした関係性の発達について述べた文献を検討することとします。あわせて、それが自閉症の理解と支援においてどのような意味を持っているのかに関する文献にも一部触れます。参加者の関心に応じて購読し、臨床実践の基礎となるような議論をしたいと考えています。</p>		

### 4-3: 応用セミナー

「応用セミナー」は、講師の先生方が独自に運営されるセミナーを本研修プログラムの一つとして組み入れているものです。経験豊富な講師の方々がそれぞれユニークな視点と専門性をもって開催しているセミナーです。より多角的に心理療法について学んでいくことができます。

#### 4-3-1: グループスーパービジョン

少人数（5名）の Small Group スーパービジョンです。1年間継続して、同一のメンバーが、同じスーパーバイザーのもとで事例を検討します。Ⅰでは成人の事例を、Ⅱでは子どもの事例を検討していきます。各グループとも受講生にあった細やかな指導がなされるとともに、スーパーバイザーの臨床に対する考え方やケースに対する姿勢など、さまざまな面を学ぶことができます。尚、Ⅱについては、「日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修グループの認定審査を受け、「症例・事例検討会」として認定されています。

Small Group S.V. Ⅰ	飛谷渉先生／なんば会場	第2・4火曜日／19:30～21:00
—講師からの内容紹介— 子ども、思春期、成人という幅広い年齢層のケースを対象としてグループ・ディスカッション形式のスーパービジョンを行います。精神分析的な心理療法における治療構造の創造とその維持、転移逆転移をどう読みどう解釈するか、その二つをグループスーパービジョンの主眼とし、さらに心理療法のセットアップ、アセスメント、精神分析的態度の獲得などにも適宜ふれていきます。その中で一セッションごとに何が起きているのかを感知できる力をつけることを目標とします。		

Small Group S.V. Ⅱ	平井正三先生	第2・4木曜日／18:00～19:30
—講師からの内容紹介— 子どもの事例（中学生まで）を検討していきます。自分自身の事例だけでなく、他のメンバーの事例に接する中で、様々な事例を見ていける力、そして事例についての自分なりの考えを表現できる力を培うことを目標にしていきたいと思えます。子どもの心理療法を始めたが、精神分析の技法と理論をもっと学んで、より深く事例を理解し、技量を高めていきたい人向けです。		

#### 4-3-2: セミナー・ワークショップ・勉強会

それぞれのセミナーやワークショップが独自のテーマを設定し、少人数で1年間継続して学べるようになっていきます。事例の特徴に合わせて必要な知識を集中的に学べるセミナーや子どもに限らず心理療法の基本を学べるセミナーなどがあります。

発達障害児の心理療法ワークショップ	平井正三先生	第2土曜日／19:00～21:30
—講師からの内容紹介— 発達障害児の臨床例のある方を対象とします。発達障害児の精神分析的な心理療法について、文献講読と事例検討を通じて研究していくワークショップです。文献講読では、ポスト・クライン派の自閉症に関する論文を中心に、適宜発達研究や神経科学などの邦訳論文・英語論文などを織り交ぜて読んでいきます。クライン派の遊戯技法に習熟している必要はありませんが、関心のある人が望ましいです。		

<b>精神分析臨床研究会</b>	<b>平井正三先生</b>	<b>第 4 木曜日／14:30～17:00</b>
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>この研究会は、文献を講読しながら、事例検討も並行して行ない、精神分析臨床に関する理解を深める機会を受講者に提供します。取り組んでいく文献は、クライン派の分析家のローゼンフェルトがイタリアで行ったセミナーの記録、Herbert Rosenfeld at Work (Karnak Books)です。セミナーの記録ですので、通常の論文を読むより、ヴィヴィッドに精神分析臨床の実際とそれに関するローゼンフェルトの考えに触れることができます。受講者は、クライン派の精神分析について一定の知識があることが望ましいですが、必須ではありません。</p>		

<b>思春期青年期の精神分析的心理療法セミナー： タビストックのアドレッセント臨床を学ぶ</b>	<b>飛谷渉先生／ なんば会場</b>	<b>第 2 土曜日 18:30～21:00</b>
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>思春期青年期（13歳から22歳）の臨床例をお持ちの方、もしくは近い将来お持ちになる予定の臨床家を対象とします。文献購読とともにアセスメントやマネージメントも含めた事例検討を広い視野のもと行います。スクール・カウンセリング、学生相談、医療クリニック、児童養護施設など、治療の場やセッティングの相違によるアプローチの違いなども検討します。それらの事例がサイコセラピーに向いているかどうか、そうでないならどのような対応が治療的かといったことから、本格的な精神分析的心理療法の中でのアドレッセントにも焦点を当てることとなります。さらに英国タビストックの思春期青年期部門におけるアプローチを紹介し、日本の思春期臨床の中でそれらをいかに適用できるかについて受講者の方々とともに検討します。</p> <p>使用文献；‘The Tavistock Model: Papers on Child Development and Psychoanalytic Training’ (Harris Meltzer Trust) Karnac.</p> <p>‘Adolescence: Talks and Papers by Donald Meltzer and Martha Harris’ (Harris Meltzer Trust)Karnac.</p>		

<b>京都精神分析研究会</b>	<b>平井正三先生／ 佛科大学四条センター会場</b>	<b>第 3 土曜日／19:00～22:00</b>
<p>—内容紹介—</p> <p>文献講読と事例検討会を行いながら、専門会員が個々の研究について発表していきます。</p> <p>NPO 正会員はどなたでも参加することができます。</p> <p>現在の文献講読は、Klein の『児童分析の記録』をセッション一週間分ずつ読み、それと平行して、Meltzer の『Kleinian Development』の中にあるセッションの解説を読んでいます。</p>		

★本 NPO としては、精神分析的心理療法の実践において、個人スーパービジョンおよび個人分析・個人セラピーを受けることは重要かつ欠かせないものと考えております。個人スーパービジョン、個人分析をご希望の方には、ご相談を受付けますので事務局 ([info@sacp.jp](mailto:info@sacp.jp)) までご連絡ください。

## 5. 受講料

「子どもの精神分析的心理療法 BASIC」は5月末日までに全受講料をご納入いただくか、全受講料の半額を5月末日まで、残りの半額を10月末日までに本NPOにご納入いただきます。「文献購読Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」については、全受講料を3月末日までにご納入いただくか、全受講料の半額を3月末日までに、残りの半額を10月末日までに本NPOにご納入いただきます。受講受付の後、請求書を送付させていただきます。ご確認の上、指定の振込口座まで納入ください。一度納入されました受講料は、返金いたしかねますのでご了承ください。

尚、「乳児観察セミナー」や「応用セミナー」につきましては、以下をご参照ください。正会員としての入会を希望される方は、事務局（E-mail：info@sacp.jp）までお問い合わせください。

	コース名	受講料	納入方法
基幹セミナー	子どもの精神分析的心理療法 BASIC	60,000円/全18回	受講料は5月末日までに納入ください。分納希望される方は半額を5月末日まで、残りの半額を10月末日までに指定の振込先へ納入ください。
	乳児観察セミナー	5,000円/1回	各月ごとに講師にお支払ください。
	文献講読Ⅰ	正会員 50,000円/全10回 その他 60,000円/全10回	受講料は3月末日までに納入ください。分納希望される方は半額を3月末日まで、残りの半額を10月末日までに指定の振込先へ納入ください。
	文献講読Ⅱ		
	文献講読Ⅲ		
応用セミナー	Small Group S.V.Ⅰ	5,000/1回 90分	各月ごとに講師にお支払いください。
	Small Group S.V.Ⅱ	6,000/1回 90分	
	発達障害児の心理療法ワークショップ	50,000円/全10回	セミナー開講後、講師の指示に従ってください。
	精神分析臨床研究会		
	思春期青年期の 精神分析的な心理療法セミナー		
	京都精神分析研究会	無料	NPO正会員のみご参加できます。 新たに参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

注：料金の分納制度はあくまで振込みの負担を軽減するための措置です。研修プログラムは1年を通して参加していただくことで得られる濃密な学びとメンバーシップを重視しておりますので、半年単位の参加はご遠慮いただいております。

## 6. 修了証の発行

「心理療法入門セミナー」「京都精神分析研究会」を除く各セミナーについて、年度毎に修了証を発行いたします。修了証は、本 NPO がコース修了と考える基準を明確にし、受講生がその基準を満たしたことを証明するためのものです。本研修プログラムは受講生の自主性を尊重するものであり、必ずしも修了証を受けることを目指す必要はありませんが、精神分析的心理療法士・精神療法医資格取得のために単位を必要とされる方は、修了証を得る必要があります。各コースにおいて、修了証を受け取るためには、以下の要件を満たすことが必要となります。

また本研修プログラムは、NPO 法人子どもの心理療法支援会においてセラピー支援を実施するためのセラピストを養成する役割も兼ねております。セラピストとして本 NPO のセラピー支援活動をするための基準のひとつとして、修了証を受け取ることが含まれています。

乳児観察	2年間の乳児観察を終了すること
G.S.V.	出席率 8割
その他セミナー	8割の出席および各講師が指定したテーマに沿ったエッセイの提出

## 7. 特待生

本 NPO では乳児観察セミナーの修了を、子どもの精神分析的心理療法を行うための最も基本的かつ重要なものと考えています。本 NPO の正会員で乳児観察セミナーを受講中であり、子どもの心理療法実施者として本 NPO のセラピー活動を支えていく意思がある方を特待生として理事会にて認定します。特待生は、研修プログラム受講料の一部が減免されます。

特待生の認定を希望される方は、申込用紙の「特待生の認定」の欄の「希望する」をチェックして、お申込みください。認定の可否につきましては、追って事務局より連絡させていただきます。

## 8. 申し込み

**対象：**臨床心理士，医師，それに準じる専門家。もしくは心理臨床の実践について学んでいる大学院生。

**申込方法：**申込用紙に必要事項を記入の上、**2012年2月末日（一次募集）まで**に「子どもの心理療法支援会」事務局まで E-mail または Fax にてお申込みください。

**参加の可否：**参加希望者が定員を超えた場合は、前年度から引き続き受講される方に優先的に参加いただきます。次に新規に参加される正会員，賛助会員，一般の順にご参加いただきます。正会員，賛助会員の中で定員を超えた場合は、先着順にてご参加いただきますのでご了承ください。参加の可否につきましては、3月上旬に事務局よりご連絡いたします。ご参加いただける場合は、その連絡とともに受講料の振込みについてのご案内をお送りいたします。連絡方法は、E-mail, Fax, 郵送の3通りがあります。ご希望の連絡方法を申込用紙の「参加可否の連絡方法」の欄でご指定ください。

**お問い合わせ：**NPO 法人 子どもの心理療法支援会 事務局

〒604-8187 京都市中京区東洞院通御池下る笹屋町4 4 4 初音館3 0 2

Fax : 0 7 5 - 6 0 0 - 3 2 3 8 E-mail : info@sacp.jp URL : <http://sacp.jp/>

## NPO 法人子どもの心理療法支援会認定 「子どもの精神分析的心理療法士」 移行制度

### 1. 移行制度について

NPO法人子どもの心理療法支援会認定「子どもの精神分析的心理療法士」資格制度の発足に際して、すでに研修を相当程度受けている専門会員に対する資格取得のための移行制度を設ける。移行制度を利用する者は、移行制度用の申請書に記入の上、NPO事務局に申請すること。

### 2. 移行制度による資格取得のための要件

#### (1) 事例経験

開始時に18歳以下で1年以上継続した心理療法を2事例以上、別々のスーパーバイザーの指導の下で行うことを必須とする。そのうち1事例は開始時に小学生以下でなければならない。また治療頻度は週に1回以上であること。その際のスーパーバイザーのうち一人は本NPOが指定するスーパーバイザー（別表参照）であること。もう一人については精神分析学会認定スーパーバイザーであること。

#### (2) 単位取得

以下の表に定める単位を取得すること。

種別	研修名	単位数	最低基準単位		
理論 学習 <sup>※5</sup>	文献講読Ⅰ	1単位/年	3単位 <sup>※1</sup>	4単位 以上	34 単位 以上
	文献講読Ⅱ	1単位/年	1単位以上		
	文献講読Ⅲ	1単位/年			
	発達障害WS 被虐待児S 思春期S	1単位/年			
体験	乳児観察 <sup>※2</sup>	4単位/年	8単位以上	20単位 以上	
	個人分析	4単位/年(週1)			
		6単位/年(週2回以上)			
事例	個人スーパービジョン	4単位/年 <sup>※3</sup>	12単位以上		
	グループ・スーパー ビジョン	2単位/年 <sup>※4</sup>			
論文・ 発表 <sup>※6</sup>	乳児観察論文	査読有り4単位・なし2単位	2単位以上	6単位 以上	
	子どもの事例論文	精神分析学会研修症例発表2単位			
		精神分析学会研修症例論文4単位			
		その他の査読論文 4単位			

※1：文献講読Ⅰは、1年目「フロイト」、2年目「クライン」、3年目「ビオン」を1タームとしている。このため、各テーマについて単位を取得しなければならない。

※2：乳児観察はセミナー参加期間ではなく、自身の観察を行った期間とする。

- ※3：個人スーパービジョンについては原則毎週行われるものとする。隔週の場合は1年で2単位とする。ただし、2事例のうち最低1事例については毎週のスーパービジョンを受けていること。一人のスーパーバイザーで算出できる単位は8単位までとする。
- ※4：グループスーパービジョンについては原則隔週で行われるものとする。月1回の場合は1年で1単位とする。
- ※5：理論学習は当NPO法人が主催する研修以外でも、同等の内容の研修を受けた証明があれば読み替えて単位を認定することも可能とする。
- ※6：査読ありの論文を少なくとも1本執筆することを必須とする。事例の発表及び論文の事例は、スーパービジョンを受けた子ども（18歳以下）の事例を対象とするものに限る。

### (3)個人分析

乳児観察を行っていない場合は、個人分析を受けることを必須とする。この場合、個人分析は、週に1回以上の頻度で、同一の分析家から3年以上受けること。分析家は、NPO法人子どもの心理療法支援会が推奨する分析家・心理療法士（別表参照：希望者のみ閲覧いただけます）であることが望ましい。ただし、週4日以上精神分析を3年以上受けたことがあることを証明することができる分析家の場合には、原則として認められる。

## 3. 移行措置の要件を満たすための支援

資格取得に必要な、学会発表や論文作成については、グループスーパービジョンなどの機会を通して、サポートする。サポートを必要とされる方は事務局にご連絡ください。

## 4. 申請および実施期間

移行制度によって、資格取得を希望するものは、上記の要件を満たした上で、NPO法人子どもの心理療法支援会事務局に申請書を提出すること。申請後、資格審査委員（数名）の面接を経て、資格審査委員会にて正式に認定される。資格審査委員会は毎年5～6月に開催される予定なので、その年の審査を受けるためには4月末までに申請をすること。

移行制度の申請期間は、2011年4月1日から2016年4月末日までとする。